



風俗文選  
二

5  
4470  
2



5  
4470  
2

草書

福

昭和九年  
十月一日  
購求

南都賦

汝邨

鎌倉賦

許六

吉野賦

文州

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐蘭

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

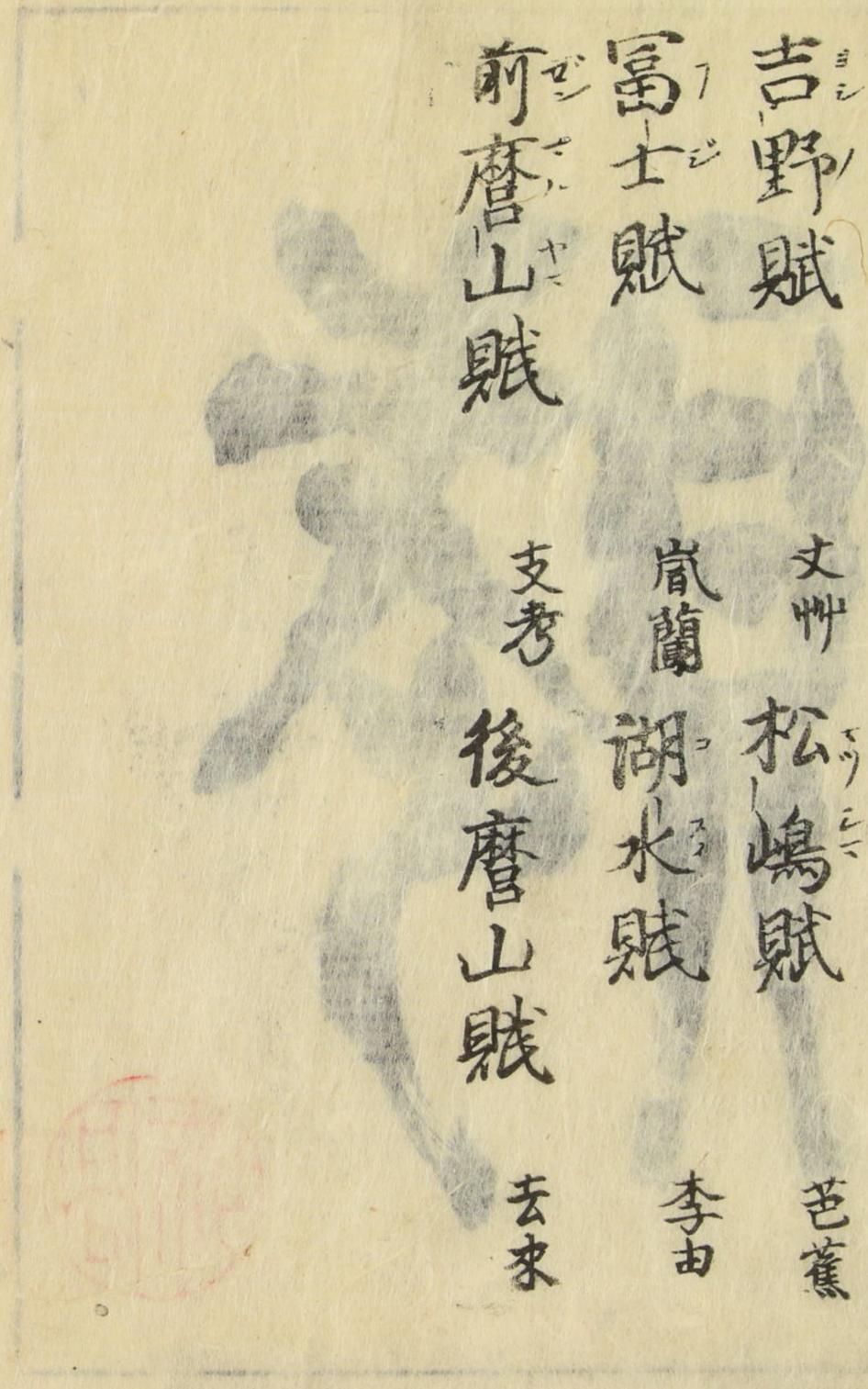
風俗文選卷之二

五老井 許六選

賦類

南都賦

汝邨



○あはよーりかろけ余さマい之を山乃麓かむ老唯天  
 聖和洞ニ逢ふ余はまよはば余は移るる大宮處六佛處  
 佛神をあらがてしてまじを輔く。君文お中らん月日の文。電  
 殿尾上の文。鏡乃神々橋の廣徳をよらん。淳子おま  
 藤原立乃娘と云。氷室奈川。東大寺の八幡二月堂。小  
 若狭井あり。二月堂。中月。物持ら。久家の入らおれを  
 ぞめ。大川の折行ら。源の形おお幕を張。真福寺と





吾よりいづく漢と仰むの地也。乃ゆへに那乃名を以。殿  
所乃時也。熱進補使として。文武の序あり。源氏乃  
神皇の御中。やまをこころし。あまを。上皇女。お直方。直  
一。位して。ハ幡方。所義家。お居り。源家代。く。お侍  
乃。此なる。賦。一。て。回。

三代乃將軍。九代乃執權。世の死さけ。ば。好のおを。ま。ま。  
柳。此。と。や。こ。も。海。く。一。乃。里。樹。り。を。お。井。の。衆。下。お。若。き。は。  
お。義。家。の。臣。の。建。立。し。て。一。乃。若。き。と。源。二。位。の。御。侍。を。  
官。極。を。く。一。ま。立。て。氏。の。く。一。相。少。元。の。こ。は。の。若。い。こ。と。辨。財。  
天。之。浦。之。邊。一。杜。戸。の。御。所。あり。高。倉。が。余。は。お。持。入。り。け。  
那。乃。代。由。井。の。原。と。く。河。を。お。居。り。目。を。是。無。と。お。申。す。

小袋坂。橋村。が。橋。七。里。の。邊。月。け。の。谷。よ。の。原。と。地。り。解。が。谷。よ。の。  
佐。竹。乃。段。の。邊。あり。藤。原。乃。本。よ。ハ。毎。度。が。甲。州。の。下。吉。と。お。  
一。兒。が。誤。り。ハ。白。菊。乃。元。朝。お。あ。と。く。む。り。瀬。川。よ。を。  
家。の。親。王。お。お。と。い。川。一。清。川。よ。を。お。居。り。を。搜。と。日。  
運。盛。久。の。首。の。原。系。清。の。り。と。龍。の。あ。と。入。後。乃。と。お。  
佐。伯。の。後。よ。く。る。一。み。實。家。の。つ。の。と。曉。が。お。り。お。裁。せ。し。は。賜。  
長。壽。院。よ。の。義。家。乃。綱。藤。を。お。葬。り。し。は。お。居。り。の。地。  
墓。を。築。く。あり。と。入。ら。こ。一。夜。ハ。軍。法。と。説。定。家。の。つ。ら。七。  
お。わ。か。を。お。居。り。は。此。橋。坂。の。か。お。よ。名。と。く。神。前。乃。衆。所。  
と。給。ふ。衆。と。く。や。あ。わ。回。島。山。平。原。小。原。石。原。を。お。居。り。お。  
浦。乃。よ。も。お。居。り。馬。ひ。や。一。場。の。小。あり。正。家。乃。四。郎。一。の。み。



芳野賦

文州

千代の御をよき皇とつからしむるは、  
 蘇我の尾上。山の井。花園を詠む。てんで二十一代の御  
 二百七十余有。花家く。の集。お終類。遠連。唯浩のそと、い  
 依川。田。ま。い。が。あ。さ。れ。く。貞室老人乃。これ。つ。く。ま。で。か。さ。ふ  
 古く。い。ま。な。り。らん。さ。れ。ば。い。ろ。う。の。音。四。六。お。は。い。り  
 ちぎみ乃。唯浩乃。弁。一。わ。始。り。茅。甘。川。花。の。名。す。る。と。い。は。れ  
 結和。尚。お。た。ま。い。なる。弁。の。小。物。な。り。川。と。巴。り。例。一。わ。も。純  
 心。記。の。い。お。山。よ。新。山。大。早。一。も。つ。ま。い。形。智。高。也。う。う

千代乃。藏王堂。之。や。ころ。は。安置。一。歌。き。ハ。御。と。也。上。市  
 一。わ。々。飯。貝。一。と。一。わ。下。市。を。あ。く。て。六。回。一。も。お。は。は。る。妹。首  
 山。を。あ。さ。り。さ。ぬ。乃。城。一。ひ。よ。ち。の。の。標。日。中。花。標。回。乃。春  
 さ。ら。く。嶽。園。全。の。花。流。さ。ら。く。や。井。橋。布。川。乃。橋。花。美  
 倉。花。露。の。水。流。さ。ら。く。毎。山。の。津。守。一。お。う。い。え。彼。神。振  
 山。々。を。ま。帝。一。も。み。乃。乃。舞。を。始。む。清。見。原。乃。天。中。一。お。は  
 人。乃。一。ま。う。ら。一。存。殿。破。帝。ハ。春。水。院。を。い。は。れ。よ。定。じ。義。後  
 も。は。院。も。や。と。ら。し。ま。さ。る。も。い。寺。と。な。陣。と。も。賀。名。ま。ら。く。無。害  
 乃。淨。取。乃。若。輪。寺。一。六。淨。廟。と。祭。く。厨。子。の。戸。ひ。ら。く。南。帝  
 和。化。乃。若。を。い。は。れ。あ。さ。り。道。玄。峯。の。奥。一。一。楠。正。乃。氣  
 朝。の。弁。を。い。は。れ。判。友。の。鑑。一。亦。慶。乃。る。刀。口。お。山。門。と。ま。ら。四。



そとさくし乃名よ。若中しつる花をさくぞうたや  
とも極まこ。程届をつまぬしつこらみお終。

松嶋賦

色蒼翠

ともしつるぬらしふき神と。松嶋を杖葉才一乃好此  
しつる河を西湖と程を。あまの海を入く。江乃  
中三里。漸く江み海をさくふ。七十二里。数百の嶋を  
勢川とわら天を指。ぬきもけら波よ旬旬。あまの  
二さよかさなり。二さよまきくうたよ。右よけし  
かむ。肩らあり。抱ふあり。児孫おしむる。つとし。内  
かご。かぬこ子。程嶋。うし。さき。半。嶋。地。一。ま。内

裏海。藤原。一。ま。色。さ。き。く。あ。ま。の。乃。少。海。満。つ。ま。き。く。  
辭。日。川。夢。く。よ。ば。れ。で。な。り。し。よ。み。ま。し。使。を  
か。一。ま。の。松。心。を。さ。と。た。わ。り。て。松。の。ひ。ま。く。一。葉。を。葉  
く。羽。を。さ。い。一。枝。を。さ。く。あ。ま。の。葉。の。末。も。松。の。は。さ。か。く  
乃。さ。く。と。出。し。後。田。の。み。川。沖。乃。る。ふ。ま。海。の。松。  
表。隅。の。松。松。の。松。の。名。と。な。り。て。ま。き。り。志。が。け。田。の。浦。を。  
塩。の。田。の。松。の。松。あり。神。お。乃。か。た。竹。葉。文。治。之。子。泉  
乃。之。神。奇。進。と。記。す。旅。時。が。磯。を。地。つ。ま。よ。く。雲。居  
標。師。乃。別。家。の。末。し。よ。坐。禅。石。陽。岩。寺。の。柳。松。の  
町。松。入。乃。の。建。立。當。村。之。十。二。世。の。む。り。一。ま。松。平。中。島。し  
か。家。一。つ。入。る。海。の。松。園。山。も。ま。ほ。存。在。の。松。の。末。

舞して七雲伽藍をけり。法蓮音を海峯に  
傳。老松影をひきり。青綠波をひきり。雲の緑もや  
く小枝を汐内。吹くぬきぬき。屈曲をのけくろくも  
らるるごとし。其の氣を宵宵として。雲人の影を  
ちりや振神のむし。大山すこ乃かなる。とよこや  
世の天のらづきおんり。身とよる。河をあらじ

富士賦

嵐蘭

わこち日本の茅草も山也。むし。若雲みゆ。山  
免て現る。縁福もい。山子登りて。仙系を求め。かくや。姫  
と神と化して。くふ雲とく。び。雲のハ。八雲よ。く。

根ハ西州。まき。高道。吹ハ。口より。おほりて。子  
ま。く。後。ま。と。野ハ。東西。上。長。一。百。里。ま。け。り。た。は。  
形。く。の。ま。を。ら。る。が。あ。く。る。ま。の。中。小。斗。ま。出。し。一。夜  
陰。し。旭。を。か。や。し。其。天。ま。雲。を。ひ。く。ま。山。間。に。海。を  
ま。へ。い。山。ま。ま。妙。を。攀。松。玉。更。物。類。ま。る。ま。る。く。  
二。玉。を。い。と。糸。し。義。楚。六。帖。に。息。は。先。そ。り。目。中  
茂。る。ハ。東。夷。を。ま。り。ま。り。て。草。雜。乃。ま。を。あ。ら。せ。ぬ。  
た。ち。お。お。る。ま。ま。の。物。を。あ。け。め。て。牧。狩。を。の。け。  
雪。の。光。を。信。成。れ。仇。名。を。し。り。人。元。乃。興。ハ。仁。田。か  
を。別。さ。り。なり。十。所。か。え。あ。り。社。あり。ハ。八  
文。字。を。し。り。子。探。幽。ら。ま。ま。と。ま。あ。ぐ。心。燃。ハ。た。く

乃序。一読より。其まきり廻。船は怖。きて。一入  
 八寸の馬。とむ。程定の人。家冠。謝。つらみ  
 下。向。乃。ま。小。純。の。あ。を。あ。る。よ。純。原。八。輪。中。服。の  
 雀。菓。者。言。ハ。大。心。一。して。伴。与。乃。ま。山。ま。お。と。い。れ。ま。  
 乃。羽。ま。ま。よ。ハ。臆。病。よ。な。何。く。た。の。す。よ。述。向。始。下。海  
 峯。石。魚。天。富。士。草。中。多。ト。美。花。西。十。木。松。橋。の。よ  
 所。そ。く。い。住。還。ハ。竹。の。ト。熱。根。原。あ。く。回。と。是。橋。下。風  
 横。げ。ア。乃。美。あ。く。舟。の。浪。は。作。夜。れ。山。越。海。を。海  
 妻。子。を。か。さ。ぬ。と。保。清。見。ち。乃。ん。結。信。お。ね。強。合。れ。安  
 貝。本。あ。ま。乃。橋。と。よ。ハ。馬。上。れ。人。の。首。を。め。ら。り。し。亦。坂  
 張。河。系。よ。ら。な。お。お。お。意。は。勝。を。さ。ま。も。遠。く。と。う。お。

熊。山。を。か。さ。び。の。う。く。ら。系。一。系。お。其。ま。ま。の。な。り。は。い。  
 訪。謙。の。ゆ。よ。例。乃。新。を。候。一。甲。列。の。府。よ。ハ。三。い  
 甲。一。い。く。して。廟。の。繪。ち。う。か。る。る。べ。一。び。一。い。り。の。清  
 一。の。連。備。の。白。敷。合。を。く。く。終。を。は。は。う。く。バ。大。く。い。は。い。の。う。  
 さ。よ。ハ。い。ま。じ。さ。終。じ。古。今。の。何。き。一。首。秀。あ。と。と。者  
 を。赤。人。の。巾。妙。た。く。べ。一。も。系。ち。け。い。よ。射。一。く。  
 ち。が。一。一。も。及。む。ら。は。吾。翁。富。士。を。勝。れ。り。一。と。な。な。と。も。  
 東。路。又。執。事。人。を。かく。か。り。な。く。お。ゆ。り。乃。流。心。力。を  
 賣。一。一。又。あ。づ。ま。路。子。お。も。む。お。ね。人。の。か。く。く。み。難。き  
 富。士。を。い。ぶ。一。一。一。一。し。を。終。る。も。共。一。一。孫。多。し。



すやわ。白石シラヒシとゆふら。四石湖シヤクと一詩樹シツク一本一本ははし。  
奥の海ウチノウミハ人家ヤシおほく。魚イサの表オモテとよき。積崎ツクサキ。是  
山ヤマ。馬ウマはのハ。海ウミはく島シマハ。水ミヅも。此ココ。粟アヲはく。り。海ウミ。回マヒの  
平ヒラ。海ウミハ。蛇ヘビ。柳ヤナギあり。入イレ。亀カメ。出デ。魚イサ。の。二フタ。海ウミ。ハ。松マツ。廣ヒロシ。江  
乃ナリ。中ナカ。ハ。海ウミ。ハ。山ヤマ。ハ。比ヒ。良ラ。四ヨ。海ウミ。ハ。の。取トリ。子コ。を。ハ。き。し。積ツク。崎サキ。依ヨ。  
吹フキ。乃ナリ。新シン。を。く。り。川カハ。と。松マツ。を。海ウミ。回マヒ。と。柳ヤナギ。乃ナリ。積ツク。松マツ。ハ。幸サチ。崎サキ。  
千チ。く。れ。虫ムシ。蓮レン。ハ。支シ。那ナ。ハ。石イシ。と。く。く。草クサ。葉エハ。ハ。四ヨ。川カハ。ハ。  
肥フ。く。り。柳ヤナギ。大オホ。根ネ。兵ヒヨウ。と。草クサ。ハ。鴨カモ。牧マキ。屋ヤ。也。比ヒ。次ジ。絹クヌ。と。ま。  
布フ。乃ナリ。湖ウミ。と。く。く。海ウミ。祝イハヒ。也。依ヨ。甲カウ。墨スミ。白シラ。於コ。石イシ。亦モト。本キ。材カ。  
本ホ。底ソコ。石イシ。と。も。さ。り。し。く。海ウミ。一ヒト。く。く。山ヤマ。の。敷シキ。初ハツメ。ハ。大オホ。河カハ。  
乃ナリ。白シラ。名ナ。石イシ。也。伊イ。吹フキ。乃ナリ。赤アカ。ハ。麦コムギ。と。ま。め。の。く。之コノ。艾アヲ。石イシ。灰ハイ。赤アカ。

種タネ乃ナリ類ルイ。ま。く。も。岩イハ。生ナ。日ヒ。也。根ネ。ハ。金カネ。津ツ。乃ナリ。根ネ。也。と。く。く。  
き。焼ヤキ。ら。く。く。海ウミ。乃ナリ。も。也。深フカシ。元ゲン。丹タン。而シテ。く。茶チヤ。也。廣ヒロシ。田タノ。川カハ。  
解トク。り。并ナラ。餅モチ。も。也。投ナゲ。り。し。籠カゴ。村ムラ。海ウミ。四ヨ。十ジュウ。九ク。張シヤウ。乃ナリ。き。也。海ウミ。  
池イケ。の。川カハ。池イケ。針ハリ。ち。山ヤマ。靴カウチ。國クニ。本ホン。洪フウ。炮パウ。也。依ヨ。判パン。の。小コ。名ナ。外ガイ。  
是柴田勝家之製。端々ノチハ。作々本家ノ具足層也。其子孫ノ軍中兵糧ノ助トス。 端タマシ。々タマシ。の。子コ。ハ。也。看農父ニテ于今着之。  
又マタ。津ツ。く。り。し。池イケ。彈ダン。材サイ。也。飛トビ。一ヒト。後ノチ。倉クラ。の。生ナ。食シキ。也。本ホン。乃ナリ。也。  
く。り。か。く。わ。池イケ。中ナカ。乃ナリ。獵リョウ。奴ヌ。也。尾ビ。上ノヘ。乃ナリ。山ヤマ。と。論ロ。者シヤ。と。い。は。  
す。く。山ヤマ。石イシ。恒トコ。つ。ま。ハ。阿ア。比ヒ。人ヒト。を。天テン。下カ。ハ。用ヨウ。也。白シラ。松マツ。の。津ツ。  
神カミ。ハ。池イケ。乃ナリ。也。乃ナリ。き。乃ナリ。原ハラ。を。り。ん。と。い。ひ。後ノチ。請カクシ。れ。池イケ。津ツ。  
々タマシ。也。乃ナリ。神カミ。ハ。江エ。と。い。は。く。也。  
人ヒト。ハ。く。り。し。更マタ。な。り。海ウミ。乃ナリ。の。津ツ。と。海ウミ。の。敷シキ。と。名ナ。と。く。

天卷三

三





介多所。一万余ヶ所。於此集。結る。これす。中。近江。近衛。政家。の所を。げ。先。元。國中。本。よ。正。行。た。く。水。は。流。た。し。事。戸。は。流。過。と。い。う。事。て。い。く。さ。か。ま。を。は。い。し。事。業。よ。う。事。し。く。も。又。余。よ。魚。し。世。の。川。魚。と。い。つ。る。お。ハ。魚。の。す。かり。以。た。し。想。海。老。り。つ。と。な。し。も。さ。り。く。ね。え。酒。巻。酒。四年。は。お。お。平。丸。唐。細。氣。菓。カ。リ。く。作。務。あ。さ。り。つ。ま。ま。乃。あ。つ。結。も。さ。う。の。お。へ。し。裡。射。ハ。お。お。石。し。て。輕。乃。品。類。射。の。き。く。い。い。と。右。か。ぎ。あ。い。し。ゆ。ま。う。し。ん。春。ハ。心。次。の。子。を。い。て。ま。り。林。ハ。鱒。よ。紅。茶。を。ち。り。も。江。鱒。鱒。乃。名。を。ま。り。射。鱒。乃。味。を。い。し。ゆ。お。お。お。お。鱒。と。名。

下。射。ハ。五。味。お。し。中。と。ま。さ。ら。や。海。回。纒。和。尔。紗。氷。あ。ら。近。江。よ。か。さ。侍。内。膳。式。云。取。上。ニ。取。送。シ。タル。ヲ。宇。治。ニ。テ。取。九。月。日。不。賀。比。射。ノ。フ。カ。鱒。ノ。カ。ト。鱒。ノ。結。小。結。鮓。鮓。木。鮓。子。山。木。鮓。干。鮓。蟹。小。鮓。鮓。鮓。鮓。石。形。乃。多。分。ハ。鱒。ハ。魚。を。茶。も。川。右。岸。ハ。相。撲。を。お。お。大。津。石。艘。と。名。を。ハ。乃。漆。津。し。く。海。に。大。丸。子。小。丸。子。小。丸。子。川。右。岸。を。大。若。取。さ。し。傳。馬。ハ。川。右。岸。に。あり。段。平。よ。大。石。を。積。積。ハ。耕。他。乃。多。分。也。唯。肥。付。馬。不。入。舟。敷。棚。子。中。海。田。每。比。良。乃。小。海。を。海。上。の。所。を。お。お。論。事。と。ハ。況。乃。さ。さ。り。お。お。と。い。す。ト。イ。テ。い。ふ。日。和。武。ハ。ヤ。テ。と。ハ。面。を。さ。さ。り。海。回。島。伊。波。島。ヤ。セ。世。同。ナ。ガ。世。同。サ。キ。同。と。い。は。さ。る。各。名。

一。秋あけは日あり也。根こもつて湖上の月乃  
 君一とく。ふゆつハ漕舟。舟をすかた。舟佛老人  
 ハ路<sup>ミナ</sup>渡候と吟む。其<sup>ミナ</sup>中乃 勢<sup>ウツラ</sup>ノ神をとりし。心<sup>ウツラ</sup>乃  
 深<sup>コ</sup>くもつと云<sup>ユ</sup>。方<sup>カタ</sup>未<sup>マ</sup>く。老<sup>ライ</sup>翁乃 母也。老翁はもも。尚  
 此<sup>コノ</sup>勢<sup>ウツラ</sup>席<sup>マ</sup>を虫川よ啼て。石足々<sup>イシタラ</sup>とよくこと。や。玉の  
 浪乃 郁<sup>ウツ</sup>子と秋とてハ。新米乃 供<sup>ク</sup>神と候。在<sup>ア</sup>て乃 夏  
 吟てら。藤堂家<sup>フジドウ</sup>は花と拵<sup>サ</sup>く。西<sup>サイ</sup>中<sup>チュウ</sup>新<sup>シン</sup>粟<sup>ヌ</sup>の米ハ。神  
 代乃 沙<sup>サ</sup>汰<sup>タイ</sup>して。花<sup>ハ</sup>はの花<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>中<sup>チュウ</sup>今<sup>イマ</sup>も咲たり。新<sup>シン</sup>打<sup>ウ</sup>松  
 々<sup>ツツ</sup>己<sup>ニ</sup>侍<sup>シ</sup>ハ。衣<sup>イ</sup>毎<sup>ヘ</sup>よ。先<sup>サキ</sup>とあぎ大<sup>オホ</sup>敷<sup>シキ</sup>乃 由<sup>ユ</sup>衣<sup>イ</sup>よ。男<sup>オトコ</sup>鬼<sup>オニ</sup>乃  
 大<sup>オホ</sup>と義<sup>ギ</sup>よ。川<sup>カハ</sup>と。林<sup>ハヤシ</sup>は列<sup>レイ</sup>ハ十<sup>ジュウ</sup>余<sup>ヨ</sup>方<sup>ハツ</sup>右<sup>ミ</sup>。皆<sup>ミナ</sup>はあ<sup>ア</sup>一<sup>イツ</sup>甲<sup>カウ</sup>ま  
 きて。年<sup>トシ</sup>と新<sup>シン</sup>貢<sup>キョウ</sup>と備<sup>ヒ</sup>。大<sup>オホ</sup>堂<sup>ドウ</sup>今<sup>イマ</sup>乃 福<sup>フク</sup>徳<sup>トク</sup>を奉<sup>ホウ</sup>らるも。そ

は湖乃 怪<sup>オホナカ</sup>いなりとべー

前磨山賦

磨<sup>マ</sup>山<sup>サン</sup>者<sup>シヤ</sup>九<sup>ク</sup>山<sup>サン</sup>也<sup>ヤ</sup>。在<sup>ア</sup>肥<sup>ヒ</sup>長<sup>チヤウ</sup>崎<sup>キ</sup>歌<sup>カ</sup>舞<sup>ブ</sup>之<sup>シ</sup>地<sup>チ</sup>也<sup>ヤ</sup>。

支考

七月十日がゆら二方みり日乃 功德とや。新<sup>シン</sup>女<sup>メ</sup>の乳  
 ときら。お酒乃 日なるべー。は津乃 極<sup>キョク</sup>世<sup>セ</sup>も新<sup>シン</sup>人<sup>ニン</sup>もん  
 人<sup>ヒト</sup>もつら<sup>ツラ</sup>新<sup>シン</sup>むじ。よそはひい<sup>ヒイ</sup>そら<sup>ソラ</sup>もつらふ。ゆ<sup>ユ</sup>さ<sup>サ</sup>し<sup>シ</sup>此<sup>コノ</sup>遊<sup>ユ</sup>河  
 よん<sup>ン</sup>と泥<sup>ドロ</sup>めき<sup>キ</sup>せら<sup>ラ</sup>神<sup>カミ</sup>て。花<sup>ハ</sup>す<sup>ス</sup>よ乃<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>び<sup>ヒ</sup>さ<sup>サ</sup>合<sup>カ</sup>ら<sup>ラ</sup>る<sup>ル</sup>サ<sup>サ</sup>也<sup>ヤ</sup>  
 ら。男<sup>オトコ</sup>ももあ<sup>ア</sup>い<sup>イ</sup>よそ<sup>ソ</sup>て<sup>テ</sup>コ<sup>コ</sup>と<sup>ト</sup>見<sup>ミ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>ん<sup>ン</sup>。さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>海  
 老<sup>ラウ</sup>乃<sup>ノ</sup>世<sup>セ</sup>よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>神<sup>カミ</sup>く。力<sup>チカラ</sup>をあ<sup>ア</sup>じ<sup>ジ</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>と<sup>ト</sup>ん<sup>ン</sup>る<sup>ル</sup>人<sup>ニン</sup>ハ<sup>ハ</sup>浦<sup>ウラ</sup>の<sup>ノ</sup>え  
 海<sup>ウミ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>も。い<sup>イ</sup>み<sup>ミ</sup>あ<sup>ア</sup>じ<sup>ジ</sup>な<sup>ナ</sup>ら<sup>ラ</sup>ん。今<sup>イマ</sup>こ<sup>コ</sup>一<sup>イツ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>も<sup>モ</sup>ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>る<sup>ル</sup>お<sup>オ</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>わ  
 る<sup>ル</sup>神<sup>カミ</sup>と<sup>ト</sup>た<sup>タ</sup>た<sup>タ</sup>乃<sup>ノ</sup>聖<sup>セイ</sup>者<sup>シヤ</sup>ら<sup>ラ</sup>ご<sup>ゴ</sup>。小<sup>コ</sup>子<sup>シ</sup>ぞ<sup>ゾ</sup>う<sup>ウ</sup>れて。顔<sup>カネ</sup>の<sup>ノ</sup>とき<sup>トキ</sup>よ

あうらんこらうをそおあつるもどく売とつよお祈何じなく  
し。奈湊冷多しとらする。葎乃たん影もそとく信  
ひ。いふと、さるあむ人より。此そ。あむ。あむ。あむ。あむ。  
し。  
あむ乃を。一。揃ひを。し。売。と。

後磨山賦

云来

○十日八日ち。あふ。た。ち。う。い。あ。わ。て。ち。う。じ。ん。寺。小。佛。と。う。ま。  
と。く。乃。社。女。乃。  
ふ。湊。乃。乃。浦。人。乃。  
あるて。着。の。あ。れ。う。

吹。あ。む。乃。  
も。乃。  
か。祈。乃。  
り。乃。  
も。乃。  
あ。乃。  
と。乃。  
あ。乃。  
こ。乃。  
あ。乃。

益壽

關

益

壽

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly cursive characters.

鼠賦 チズミ

去來

旅賦 リョ

許六

楊揮豆賦 ヤウキトウ

毛純

四採廬賦 シサイロ

李由

閑居賦 カンキョ

汝村

招魂賦 サウコン

支考

附譜

百鳥譜 ヒヤクニシ

百卷譜 ヒヤクセン

山水譜 サンスイ

風俗文選卷之三

五老井 許六選

賦類附譜

鼠賦并引

去來

此賦以五音相通假名字為韻

鼠一乃名々々々々々又よめとてしんたつらさるる  
 あり四人の鼠を鼻につまみして大なる鼠の鼻をさす  
 さるはすよとていふ山椒の眼小豆乃鼻齒の糸とほ  
 きを小神も懸へく耳は耳の青のめしんは何とわ  
 尾をさしめく籬のさやとなさるるひ背腹の  
 らよめとていふくも濃も深公せわをゆゆや夜もて  
 唇はさるるさよめとていふをさるるさよめとていふ

ひまきをぬき一ひきると所賊と作りて曰

○二月風流の完と塞をばくし世がいつつをとおし  
 居て人をかきくは是乃ううみ病持う<sup>(1)</sup>油をのせ  
 り。世の酒をひくくたれどいりし流酔をこも<sup>(2)</sup>粟を  
 煮し。煮とそこをみる。孫文よい<sup>(3)</sup>ト。大業とくむ<sup>(4)</sup>牙よぬ  
 海神が病をい<sup>(5)</sup>い<sup>(6)</sup>い<sup>(7)</sup>い<sup>(8)</sup>い<sup>(9)</sup>い<sup>(10)</sup>い<sup>(11)</sup>い<sup>(12)</sup>い<sup>(13)</sup>い<sup>(14)</sup>い<sup>(15)</sup>い<sup>(16)</sup>い<sup>(17)</sup>い<sup>(18)</sup>い<sup>(19)</sup>い<sup>(20)</sup>  
 ともさよ<sup>(21)</sup>い<sup>(22)</sup>い<sup>(23)</sup>い<sup>(24)</sup>い<sup>(25)</sup>い<sup>(26)</sup>い<sup>(27)</sup>い<sup>(28)</sup>い<sup>(29)</sup>い<sup>(30)</sup>  
 河い<sup>(31)</sup>い<sup>(32)</sup>い<sup>(33)</sup>い<sup>(34)</sup>い<sup>(35)</sup>い<sup>(36)</sup>い<sup>(37)</sup>い<sup>(38)</sup>い<sup>(39)</sup>い<sup>(40)</sup>  
 て<sup>(41)</sup>い<sup>(42)</sup>い<sup>(43)</sup>い<sup>(44)</sup>い<sup>(45)</sup>い<sup>(46)</sup>い<sup>(47)</sup>い<sup>(48)</sup>い<sup>(49)</sup>い<sup>(50)</sup>  
 永業と<sup>(51)</sup>い<sup>(52)</sup>い<sup>(53)</sup>い<sup>(54)</sup>い<sup>(55)</sup>い<sup>(56)</sup>い<sup>(57)</sup>い<sup>(58)</sup>い<sup>(59)</sup>い<sup>(60)</sup>  
 或<sup>(61)</sup>い<sup>(62)</sup>い<sup>(63)</sup>い<sup>(64)</sup>い<sup>(65)</sup>い<sup>(66)</sup>い<sup>(67)</sup>い<sup>(68)</sup>い<sup>(69)</sup>い<sup>(70)</sup>



乃野一とや。五<sup>(1)</sup>十<sup>(2)</sup>十<sup>(3)</sup>十<sup>(4)</sup>十<sup>(5)</sup>十<sup>(6)</sup>十<sup>(7)</sup>十<sup>(8)</sup>十<sup>(9)</sup>十<sup>(10)</sup>十<sup>(11)</sup>十<sup>(12)</sup>十<sup>(13)</sup>十<sup>(14)</sup>十<sup>(15)</sup>十<sup>(16)</sup>十<sup>(17)</sup>十<sup>(18)</sup>十<sup>(19)</sup>十<sup>(20)</sup>  
 来もそやと<sup>(21)</sup>い<sup>(22)</sup>い<sup>(23)</sup>い<sup>(24)</sup>い<sup>(25)</sup>い<sup>(26)</sup>い<sup>(27)</sup>い<sup>(28)</sup>い<sup>(29)</sup>い<sup>(30)</sup>  
 新<sup>(31)</sup>い<sup>(32)</sup>い<sup>(33)</sup>い<sup>(34)</sup>い<sup>(35)</sup>い<sup>(36)</sup>い<sup>(37)</sup>い<sup>(38)</sup>い<sup>(39)</sup>い<sup>(40)</sup>  
 目<sup>(41)</sup>い<sup>(42)</sup>い<sup>(43)</sup>い<sup>(44)</sup>い<sup>(45)</sup>い<sup>(46)</sup>い<sup>(47)</sup>い<sup>(48)</sup>い<sup>(49)</sup>い<sup>(50)</sup>  
 も<sup>(51)</sup>い<sup>(52)</sup>い<sup>(53)</sup>い<sup>(54)</sup>い<sup>(55)</sup>い<sup>(56)</sup>い<sup>(57)</sup>い<sup>(58)</sup>い<sup>(59)</sup>い<sup>(60)</sup>  
 ては合よ<sup>(61)</sup>い<sup>(62)</sup>い<sup>(63)</sup>い<sup>(64)</sup>い<sup>(65)</sup>い<sup>(66)</sup>い<sup>(67)</sup>い<sup>(68)</sup>い<sup>(69)</sup>い<sup>(70)</sup>  
 傷<sup>(71)</sup>い<sup>(72)</sup>い<sup>(73)</sup>い<sup>(74)</sup>い<sup>(75)</sup>い<sup>(76)</sup>い<sup>(77)</sup>い<sup>(78)</sup>い<sup>(79)</sup>い<sup>(80)</sup>  
 あ<sup>(81)</sup>い<sup>(82)</sup>い<sup>(83)</sup>い<sup>(84)</sup>い<sup>(85)</sup>い<sup>(86)</sup>い<sup>(87)</sup>い<sup>(88)</sup>い<sup>(89)</sup>い<sup>(90)</sup>  
 ま<sup>(91)</sup>い<sup>(92)</sup>い<sup>(93)</sup>い<sup>(94)</sup>い<sup>(95)</sup>い<sup>(96)</sup>い<sup>(97)</sup>い<sup>(98)</sup>い<sup>(99)</sup>い<sup>(100)</sup>  
 くら<sup>(101)</sup>い<sup>(102)</sup>い<sup>(103)</sup>い<sup>(104)</sup>い<sup>(105)</sup>い<sup>(106)</sup>い<sup>(107)</sup>い<sup>(108)</sup>い<sup>(109)</sup>い<sup>(110)</sup>  
 危<sup>(111)</sup>い<sup>(112)</sup>い<sup>(113)</sup>い<sup>(114)</sup>い<sup>(115)</sup>い<sup>(116)</sup>い<sup>(117)</sup>い<sup>(118)</sup>い<sup>(119)</sup>い<sup>(120)</sup>

はぐししゆがさふをこめて思ふ。口よみの袖よ呼ばせて位司<sup>イハシ</sup>中一  
 町<sup>(2)</sup>も。巨敷乃かのこにも。甲子とむして。年お號<sup>ナ</sup>あふそめ  
 まよごう<sup>(1)</sup>。口くまのままをくれぐら。子乃口の中賀<sup>ナカカ</sup>あり。子奉  
 とらう<sup>(1)</sup>。あづき乃を昔の傳つた。かの口<sup>(1)</sup>の口<sup>(1)</sup>。口<sup>(1)</sup>の口<sup>(1)</sup>。口<sup>(1)</sup>の口<sup>(1)</sup>。  
 ①海原や。こくはの位よ。なたよるる。海原とわく<sup>(1)</sup>。口<sup>(1)</sup>  
 藤原の尾<sup>(1)</sup>。あづき。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 鳥羽玉乃圍<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 歎<sup>(1)</sup>す。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 小ぞ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 やあまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。

名乃<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 けむ<sup>(2)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。  
 かつ<sup>(1)</sup>。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。

旅賊并引

旅に流れたの。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。あまよ。

又ゆい。皆北條乃懐たれ。家羽。白川の田植所  
とぞゆ。奥羽のふるさとをゆく。さる彼乃甘きまよ。長  
たがらんとあつし。あつし山乃夕暮よ。吹浦と海  
ぬ作はし横よ天乃川よ。ゆた乃夜とさる白  
と秋よ。や路乃二見を法つとて。七石。平余程とゆ  
と。あつしうらぐ。旅終る。か量。派。國。ド。て。一。程。の。飯。と。か  
く。風。流。と。あ。さ。な。は。い。色。を。意。を。な。と。そ。ら。よ。海。の  
報。復。よ。乃。お。時。は。よ。旅。十。程。の。終。と。明。と。て。渡。し。て  
何。れ。果。の。求。め。し。無。き。と。も。内。旅。よ。ん。や。り。わ。俗。決。と。あ  
つ。た。お。賤。子。段。と。の。次。あ。れ。し。一。團。乃。細。る。ま。ま  
花。乃。類。よ。あ。ら。う。と。

旅店のさゆ。上段よ書院。旅。秘。書。式。す。り。だ。の。あ。れ  
大。庭。よ。や。ぐ。の。け。け。く。門。は。乃。入。湯。桶。さ。り。け。て。衣。さ。わ。  
庭。よ。小。砂。の。さ。ら。い。お。ぐ。の。お。も。り。ぶ。り。一。び。女。の。そ。ぐ  
あ。は。法。好。と。も。う。と。お。ち。板。末。ハ。あ。て。隅。く。よ。ぞ。思。を。そ  
ぐ。天。井。襖。々。あ。も。り。と。よ。さ。い。づ。ぶ。お。洗。紙。灯。ら。う。く。紙  
と。も。り。ん。庵。乃。平。し。つ。あ。の。よ。遊。こ。わ。積。賣。買。車。轆。書。を  
せ。ま。ん。や。り。し。の。枕。と。く。さ。か。き。ん。の。れ。寐。以。ん。れ。た。ら。さ  
し。お。夢。よ。ま。を。と。破。く。せ。ま。ハ。七。つ。と。い。ひ。く。火。と。海。と  
旅。人。と。あ。う。と。も。よ。く。寐。す。夜。お。あ。け。く。あ。さ。め。く。は。お  
か。ま。り。

大。名。乃。寐。る。く。も。ね。く。る。と。さ。さ。り



以を返つ。一盞乃酒よ。浩如の氣とや。やよ。一坐  
と酒を飲つ。と下りて。予みぬの氣を返す。若夫の  
目も。まを老乃あり。も。夜乃年終。下は眠て。帳の氣は  
雖。酒は飲。冷とを。なまよ。つ。け。け。て。が。ま。ら。生。の。令  
。作。の。ま。小。使。ま。ら。つ。つ。の。ま。か。つ。吸。ぐ。ら。の。ま。の。裏。こ。る  
。清。ハ。耳。の。穴。に。納。め。令。ハ。擲。鼻。禪。の。結。ぶ。つ。と。也。れ。若  
。孫。も。ま。て。世。よ。ある。人。く。乃。こ。ぶ。く。月。日。を。世。留。ま。ま  
。ま。み。と。定。め。ま。ら。ば。世。と。や。ら。う。と。ら。る。人。も。似。ま。わ。

出女もあつり。なり。なり。なり。なり。なり。なり。

流。流。流。流。の。と。よ。ま。ら。あ。ら。初。め。つ。と。失。一。ハ。其。は。な。れ。獨  
。流。の。ま。宿。と。か。一。兼。同。下。一。而。二。次。に。と。り。け。み。ら。る。

乃。初。雲。け。タ。ま。ま。情。少。く。身。あ。ら。ハ。長。持。く。を。衣。布。を  
。して。ぬ。れ。く。ろ。物。と。焼。火。よ。け。ら。あ。る。ハ。こ。室。を。是。作。と  
。つ。物。を。ま。ま。と。け。て。ま。づ。く。そ。と。休。ま。し。後。め。れ。れ。場  
。も。遊。お。ろ。さ。れ。て。初。て。の。う。ぬ。お。ろ。り。股。を。ま。く。め。あ。ま  
。乃。こ。小。木。と。推。り。て。あ。ゆ。び。べ。一。と。も。ら。ん。人。間。而。死  
。の。分。ま。あ。い。遊。も。ふ。も。ま。ま。し。醫。術。療。乃。も。は。は。ま。ま。と。く。後  
。中。持。り。り。ま。ま。や。り。く。色。病。を。防。ぐ。巡。れ。能。臨。の。族。は。語  
。既。は。倒。ま。し。け。り。同。なり。肝。葉。よ。道。ま。ま。と。ら。ま。ま。老。後。の。醫  
。み。も。目。下。よ。入。中。ろ。ろ。へ。か。ま。る。り。終。よ。ま。ま。泉。の。下。り  
。ま。く。か。り。て。何。れ。か。ま。ま。と。な。ら。ん。終。を。あ。ら。ま。ま。た。ま。ま。け。り。ま  
。中。よ。こ。失。く。年。れ。齡。衣。類。の。持。持。指。を。お。れ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

何れかある人といふ名もあらずなりけり也。是れ乃  
<sup>ト</sup>過堂の堂也。後久をよみて、同好の別を情に隔田  
<sup>ト</sup>川乃名佛を尋て、かよれ古塔よれば、今ま  
<sup>ト</sup>古流の人孫娘の情を垂して、此流の腸をさうも  
<sup>ト</sup>能自、白川乃行をよみて、二もいみちのくよあし  
<sup>ト</sup>不二知乃二分を求めん。すやたあつと仰る者。  
<sup>ト</sup>自家を老人とわ。東海屋のつすも志しぬ人乃、即  
<sup>ト</sup>よあし、くまうし、いん、翁の老る年、の度、  
<sup>ト</sup>とて、ま。

揚揮豆賦

毛純

<sup>ト</sup>系小豆、<sup>ト</sup>能よ、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>依よ、<sup>ト</sup>約、<sup>ト</sup>二、<sup>ト</sup>に、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>と、<sup>ト</sup>あ、<sup>ト</sup>て、<sup>ト</sup>毛、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>乃、  
<sup>ト</sup>仇名とれ、<sup>ト</sup>神は乃、<sup>ト</sup>粥、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>瘵、<sup>ト</sup>を、<sup>ト</sup>た、<sup>ト</sup>た、<sup>ト</sup>卯、<sup>ト</sup>月、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>を、<sup>ト</sup>れ、<sup>ト</sup>牡  
<sup>ト</sup>丹餅、<sup>ト</sup>う、<sup>ト</sup>う、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>お、<sup>ト</sup>右、<sup>ト</sup>角、<sup>ト</sup>と、<sup>ト</sup>畧、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>て、<sup>ト</sup>今、<sup>ト</sup>根、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>つ、<sup>ト</sup>き、<sup>ト</sup>色、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>ぼ、<sup>ト</sup>と、  
<sup>ト</sup>との、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>り、<sup>ト</sup>く、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>守、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>む、<sup>ト</sup>人、<sup>ト</sup>を、<sup>ト</sup>秋、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>又、<sup>ト</sup>お、<sup>ト</sup>し、<sup>ト</sup>種、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>か  
<sup>ト</sup>君とぬ、<sup>ト</sup>と、<sup>ト</sup>秋、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>お、<sup>ト</sup>し、<sup>ト</sup>め、<sup>ト</sup>さ、<sup>ト</sup>種、<sup>ト</sup>て、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>池、<sup>ト</sup>流、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>流、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>い、  
<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>流、<sup>ト</sup>の、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>つ、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>お、<sup>ト</sup>識、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>こ、<sup>ト</sup>び、<sup>ト</sup>う、<sup>ト</sup>け、<sup>ト</sup>ら、<sup>ト</sup>亦、<sup>ト</sup>致、<sup>ト</sup>とも、<sup>ト</sup>い、<sup>ト</sup>也  
<sup>ト</sup>深、<sup>ト</sup>更、<sup>ト</sup>と、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>住、<sup>ト</sup>人、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>名、<sup>ト</sup>づ、<sup>ト</sup>を、<sup>ト</sup>さ、<sup>ト</sup>ら、<sup>ト</sup>名、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>て、<sup>ト</sup>あ、<sup>ト</sup>つ、<sup>ト</sup>き、<sup>ト</sup>と  
<sup>ト</sup>解、<sup>ト</sup>謎、<sup>ト</sup>ハ、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>蓋、<sup>ト</sup>筆、<sup>ト</sup>草、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>君、<sup>ト</sup>乃、<sup>ト</sup>義、<sup>ト</sup>と、<sup>ト</sup>也、<sup>ト</sup>一、<sup>ト</sup>セ、

おのり筋を兄才お情を述<sup>ツグ</sup>。徒兄中<sup>トユ</sup>者<sup>ニ</sup>不死<sup>シ</sup>汁<sup>ジュ</sup>の石<sup>イシ</sup>ら  
づも<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>付<sup>ツキ</sup>し<sup>レ</sup>る<sup>ル</sup>ま<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>て<sup>テ</sup>中<sup>ナカ</sup>を<sup>ヲ</sup>と<sup>リ</sup>も<sup>ト</sup>。又<sup>マ</sup>あ<sup>リ</sup>お<sup>の</sup>  
乃<sup>ノ</sup>竹<sup>タケ</sup>より<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>張<sup>テ</sup>鼓<sup>ム</sup>の<sup>ノ</sup>糸<sup>イト</sup>より<sup>シ</sup>つ<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>が<sup>ガ</sup>ほ<sup>く</sup>も<sup>ト</sup>か<sup>ク</sup>続<sup>ツ</sup>が<sup>ガ</sup>中<sup>ナカ</sup>乃<sup>ノ</sup>  
一<sup>ヒ</sup>つ<sup>ツ</sup>お<sup>の</sup>遊<sup>ユウ</sup>が<sup>ガ</sup>り<sup>リ</sup>。嫌<sup>キライ</sup>し<sup>テ</sup>か<sup>ク</sup>続<sup>ツ</sup>が<sup>ガ</sup>た<sup>タ</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>ヨ</sup>嫌<sup>キライ</sup>い<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>よ<sup>ヨ</sup>遊<sup>ユウ</sup>は<sup>ハ</sup>  
む<sup>む</sup>お<sup>の</sup>目<sup>メ</sup>き<sup>き</sup>よ<sup>よ</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>ク</sup>。か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>堪<sup>タマ</sup>能<sup>ネ</sup>を<sup>ヲ</sup>持<sup>チ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>が<sup>ガ</sup>。乃<sup>ノ</sup>お<sup>の</sup>移<sup>ヒ</sup>り<sup>リ</sup>  
懸<sup>ケ</sup>こ<sup>こ</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>。い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>お<sup>の</sup>小<sup>コ</sup>豆<sup>マメ</sup>名<sup>ナ</sup>乃<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>分<sup>ブン</sup>別<sup>ベツ</sup>う<sup>う</sup>お<sup>の</sup>り<sup>リ</sup>く<sup>く</sup>。

甲梅声賦

僧季由

○<sup>ヲ</sup>悪<sup>アク</sup>と<sup>ト</sup>怖<sup>コソ</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>。討<sup>ウチ</sup>々<sup>ツツ</sup>高<sup>カウ</sup>よ<sup>ヨ</sup>位<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>し<sup>シ</sup>。氷<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup>面<sup>オモ</sup>乃<sup>ノ</sup>用<sup>ヨウ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>ト</sup>  
岩<sup>イハ</sup>窟<sup>クツ</sup>乃<sup>ノ</sup>下<sup>シタ</sup>り<sup>リ</sup>よ<sup>ヨ</sup>孫<sup>ソン</sup>へ<sup>ヘ</sup>い<sup>イ</sup>る<sup>る</sup>世<sup>セ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>ヨ</sup>。廂<sup>セウ</sup>よ<sup>ヨ</sup>孫<sup>ソン</sup>庇<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>お<sup>の</sup>  
し<sup>シ</sup>。下<sup>シタ</sup>則<sup>スナハチ</sup>よ<sup>ヨ</sup>志<sup>シ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>つ<sup>ツ</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>テ</sup>。乃<sup>ノ</sup>電<sup>デン</sup>の<sup>ノ</sup>怪<sup>ケ</sup>い<sup>イ</sup>く<sup>く</sup>。江<sup>カ</sup>々<sup>ツツ</sup>

あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。堅<sup>カチ</sup>回<sup>クワ</sup>乃<sup>ノ</sup>登<sup>トビ</sup>の<sup>ノ</sup>舟<sup>フネ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ま<sup>ま</sup>ーと<sup>ト</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>。も<sup>も</sup>今<sup>イマ</sup>は<sup>ハ</sup>得<sup>トク</sup>乃<sup>ノ</sup>下<sup>シタ</sup>  
ま<sup>ま</sup>と<sup>ト</sup>身<sup>ミ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>シ</sup>。ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>果<sup>クワ</sup>の<sup>ノ</sup>や<sup>ヤ</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>シ</sup>。鳥<sup>トリ</sup>の<sup>ノ</sup>巢<sup>ネスト</sup>乃<sup>ノ</sup>如<sup>ゴトク</sup>く<sup>く</sup>  
り<sup>り</sup>。皆<sup>みな</sup>お<sup>の</sup>他<sup>タ</sup>へ<sup>ヘ</sup>し<sup>シ</sup>。う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>得<sup>トク</sup>や<sup>ヤ</sup>ま<sup>ま</sup>。お<sup>お</sup>く<sup>く</sup>。お<sup>お</sup>な<sup>な</sup>。う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>乃<sup>ノ</sup>  
巢<sup>ネスト</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>。燕<sup>ツバメ</sup>乃<sup>ノ</sup>公<sup>キミ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>い</sup>。蟻<sup>アリ</sup>の<sup>ノ</sup>溝<sup>コウ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>い</sup>。四<sup>シ</sup>根<sup>コン</sup>の<sup>ノ</sup>  
梅<sup>ウメ</sup>を<sup>ヲ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>リ</sup>。頰<sup>頬</sup>白<sup>シロ</sup>の家<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>か<sup>か</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>い</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>で<sup>デ</sup>。病<sup>ヤマト</sup>鷄<sup>トウ</sup>が<sup>ガ</sup>  
婿<sup>ムコ</sup>よ<sup>ヨ</sup>導<sup>ミチ</sup>ひ<sup>ひ</sup>。鳳<sup>ホウ</sup>皇<sup>クワウ</sup>の<sup>ノ</sup>威<sup>イ</sup>を<sup>ヲ</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>シ</sup>。い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ハ<sup>ハ</sup>。凡<sup>オノ</sup>も<sup>モ</sup>乃<sup>ノ</sup>鳴<sup>ナリ</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>シ</sup>  
く<sup>く</sup>。い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>。ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>。鳩<sup>トビ</sup>が<sup>ガ</sup>逸<sup>イツ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>乃<sup>ノ</sup>存<sup>ゾン</sup>と<sup>ト</sup>次<sup>ジ</sup>止<sup>ト</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>。心<sup>ココロ</sup>  
く<sup>く</sup>。い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>。一<sup>ヒ</sup>日<sup>ニチ</sup>お<sup>の</sup>雨<sup>アメ</sup>降<sup>フ</sup>と<sup>ト</sup>お<sup>の</sup>は<sup>ハ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>睡<sup>スミ</sup>る<sup>る</sup>。暫<sup>シバシバ</sup>半<sup>ハシ</sup>は<sup>ハ</sup>金<sup>カネ</sup>  
才<sup>サイ</sup>破<sup>ハ</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>。こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>て<sup>テ</sup>。又<sup>マ</sup>お<sup>の</sup>く<sup>く</sup>。油<sup>アブ</sup>燈<sup>トウ</sup>乃<sup>ノ</sup>部<sup>ブ</sup>と<sup>ト</sup>お<sup>の</sup>り<sup>リ</sup>。  
抱<sup>オモ</sup>乃<sup>ノ</sup>貝<sup>ガイ</sup>の<sup>ノ</sup>よ<sup>ヨ</sup>造<sup>ゾウ</sup>徒<sup>ト</sup>。業<sup>サ</sup>標<sup>ヒヤウ</sup>乃<sup>ノ</sup>蓋<sup>カサ</sup>れ<sup>レ</sup>や<sup>ヤ</sup>も<sup>モ</sup>つ<sup>つ</sup>。ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>ハ</sup>い<sup>い</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>が<sup>ガ</sup>  
印<sup>イン</sup>紙<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>互<sup>タガヒ</sup>れ<sup>レ</sup>入<sup>イ</sup>乱<sup>ラン</sup>ま<sup>ま</sup>。廣<sup>ヒロ</sup>主<sup>シュ</sup>奇<sup>キ</sup>居<sup>イ</sup>虫<sup>ムシ</sup>お<sup>の</sup>家<sup>カ</sup>を<sup>ヲ</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>セ</sup>

引乃おぼろしき夢合す。中を絶てそらけりひのこ。

閑居賦

汝村

閑居乃乃の如の一夜は月と志と。こぞ絶てこゆる。是れ  
ゆい束さうを信わもあるふ。うや舌のく果る位  
ういとも。う世の落途のほるは。中し。すこやう  
をき先。雲野のわく。菊紅葉れ。剛伽棚も。梅よの  
傾よんおし。神。う治心の隠家よ。梅折八風流を  
まじ。人吟は。よさ。人。わ。ま。い。このさ。い。い。さ。う。や  
あ。い。く。し。た。と。志。ふ。な。い。よ。か。離。た。ト。と。え。く。り。く。  
雲の底と。さ。り。し。が。い。西。界。の。こ。せ。ふ。と。と。り。い。ま。ま。ま。

ことしひる。素粥糍粉り。種こよ。お勝と。沙羅。一。は。  
背身おさび。い。さ。ま。ふ。子。石。と。ん。き。り。い。い。の。頼。り。ぬ。  
と。い。と。り。ま。ら。い。家。れ。田。と。ぬ。む。も。備。一。徳。二。器。三。車。  
事。由。六。外。も。鼻。の。指。子。と。な。は。く。て。紙。乃。そ。く。く。と。志。  
自。利。乃。自。由。と。い。く。耳。れ。危。き。を。れ。が。れ。登。一。字。こ。市。  
考。れ。喧。い。よ。と。備。て。巻。一。枚。車。馬。れ。埃。と。避。き。り。  
世。を。控。せ。に。於。く。類。よ。い。り。も。な。く。て。ゆ。く。く。と。社。  
よ。し。め。れ。ふ。あ。い。よ。へ。ま。れ。今。れ。あ。あ。く。と。お。を。つ。ん。ふ。  
合。よ。ハ。ハ。味。と。一。酒。よ。ハ。み。味。と。そ。い。ひ。柳。板。乃。藤。  
子。よ。ハ。い。ま。れ。む。と。新。こ。皮。竹。お。板。よ。樟。よ。く。乃。  
石。木。と。水。じ。額。よ。ハ。花。緋。ち。の。文。字。と。彫。先。軸。よ。ハ。こ。紙。





々人たりあり。さうい内月の輝る平よりん。此獄のそ  
おれそきた。うへ風流のうもなる。あふれ  
赤院がうけらるる。いそきよふとむふあらせむ。  
たはれぬの<sup>フキ</sup>まなうしうじふ。此花が<sup>ハ</sup>色の  
やうして。梅花のそまふよおき。端玉宮や  
んとも。世の人おそ世のこくむし。すうじ。そお  
けそふんもあらう。志はふに杜園花葉のともむ。  
園ヅの<sup>ハ</sup>。岐山乃前格までよ。わさるるん。陽の  
まじをん。すうあふれ。内物のあふ小おれ。れ  
ふぞ。れむゆりああり。おはまふ。いとむ。  
よ。おらう。かれより。む。ゆりてをそえむ。

じや。き。う。おさ。ぬ。こ。ま。む。び。り。船。格。し。舟。方。乃  
信ありといつれく。そまむよの。むかふよ。まはれ  
そ。う。い。づ。も。り。信キコトう。ん。と。俗。々。を。と。り。世。と。い。ま。え。  
信るそとり。ね。世。と。ま。お。よ。び。と。せ。一。ふ。中。以。ん。こ。ん  
を信あるとむ。ぬ。や。づ。り。れ。て。信。あ。る。人。ハ。こ。あ。ま。と  
た。と。わ。あ。る。人。を。こ。れ。の。け。な。う。か。う。し。う。け。り。  
そ。も。又。炭。俵クミダラ。は。信ハル。妻。お。あ。た。れ。べ。し。今。や。信。格。々。  
信。あ。ら。う。い。の。う。む。と。い。な。む。し。世。は。格。と。ま。い。ふ。  
も。れ。れ。う。く。く。も。あ。ら。む。を。あ。ら。む。と。い。ふ。ま。あ。ら。  
お。あ。ら。う。う。り。ん。や。け。れ。お。魂。す。ま。や。に。め。う。と。ま。れ。か。つ。が  
吾。羽。よ。せ。む。鬼。俵。よ。か。つ。と。事。格。魂。格。よ。め。う。と。事。格。

文  
類

三

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

〇譜類

百鳥譜

支考

〇鶯の鳴き声ありと此也。是々こそたゞ人よりうたうべじ  
陶園のよ。意摩の如骨ありといふ。こちち。鶯よ。潮の  
が流あつる。をを。さ。流。が。あ。ま。の。な。乃。あ。ま。の。な。  
い。と。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。  
け。と。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。  
衣。着。も。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。あ。つ。つ。  
か。つ。つ。か。つ。つ。か。つ。つ。か。つ。つ。か。つ。つ。か。つ。つ。か。つ。つ。  
と。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。と。つ。つ。

文  
類

三







ひらふ面おれどかきしめたしむ。百花の深きふたふた  
種ねぬるともいとくさくさし。

あけあけをなく。まじひありきさういとおうし。かなうを  
あつれし。とくうもまゐる。花もあつれし。さうきくいの  
老僧もあつれし。もあつれし。あつれし。おろく。

深き。しむなる。新い。とくまをちやに。て。世とく。の  
あつれし。ちく。あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。  
あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。

あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。  
あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。  
あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。あつれし。

人乃海を家ひあつてはなれ。家鴨もあつて家ま  
あつてをの徳が力をあつておもしろ。そくに流流を  
けがれともくしうけいで。光を世の外よどく。あつては  
ぬとおもしろ。さうりけきしん。くるまら。世の人おとよあ  
しうが。おつてをたつて。翅も。けいふ。まを。おんぎう。  
あつては。洋し。あつては。べい。

世よ人を葬る者ありて。さくら。家と。人合は。つて。ま  
あつては。か。あつては。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
やう。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。

あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。  
あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。あつては。つて。ま。



そえはくろくも乃ぞしとめしてかきやりたりぬ。孫の備  
きんも度なる一。は爾乃士兒のいふなりきりる。をの終が  
友を屋ぶくふもくもや。とおもはし。

しをゆいてもお名はあつたれとのち。鷗鷗乃一名を泥  
滞レといひ。倭ワも。行よよといふもあつて。あつたが  
ふごりきりや。ははと。噂はたや。涼。かの有を  
このすき。わいらぬ。あつたえ。あつた。びん。あつた。  
かな。あつた。乃。屋を。あつた。あつた。

世を信とといふもあつて。あつた。乃。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

百花譜

許六

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



うはひわ<sup>アサ</sup>。後よ香おるは一色の。ちかふ心比しう物いさ  
久<sup>ク</sup>他。

利<sup>リ</sup>あせはな妻乃侍は侍る。喜のどし。海川物あし  
まうち志づとぞこよ人乃下よそと侍くし。

根<sup>ネ</sup>らぞとありの人乃。お妻とびく。おまらるが。根<sup>ネ</sup>子かた風  
俗<sup>ソク</sup>も似まはあわぐらよ。家を治め。男を備<sup>ヒ</sup>めらるを

い<sup>イ</sup>しし侍しと。されが女とかな。根<sup>ネ</sup>のしを化粧し  
五<sup>イ</sup>粉とそとく。ねが物乃よ。妻花なり。

柳<sup>ヤナギ</sup>ハえまおや。よまおわらん。梅<sup>ウメ</sup>梅乃お好<sup>スギ</sup>風流なる  
氣<sup>キ</sup>ももつと。い。あし。下<sup>ゲ</sup>司乃子お。備<sup>ヒ</sup>は化粧し。  
一<sup>イチ</sup>風<sup>フウ</sup>をま飾<sup>カザリ</sup>くぞるふ。いと。柳<sup>ヤナギ</sup>とそみそ。根<sup>ネ</sup>は

中<sup>ナカ</sup>も。青<sup>アヲ</sup>海<sup>ウミ</sup>小<sup>コ</sup>耳<sup>ミミ</sup>乃あ。ささふ。産<sup>ウラ</sup>屋<sup>ヤ</sup>のしつ。あふあるし。い。也。

藤<sup>フジ</sup>々。根<sup>ネ</sup>心乃お。こもをわ。く。なる。さ。さ。み。を。ら。ト。一。指<sup>サシ</sup>を  
いと。お。は。い。く。を。

山<sup>ヤマ</sup>吹乃ま。い。を。り。る。肩<sup>カダ</sup>同<sup>ドウ</sup>容<sup>ヨウ</sup>す。ら。根<sup>ネ</sup>。鼻<sup>ハナ</sup>あ。お。し。は。つ。と。襟<sup>エリ</sup>也。  
了<sup>キ</sup>新<sup>シン</sup>業<sup>ギョウ</sup>し。す。根<sup>ネ</sup>つ。ま。を。も。透<sup>スキ</sup>靴<sup>カブタビ</sup>か。た。い。つ。る。む。り。也。さ。

て。命<sup>イノチ</sup>と。り。けて。お。ま。は。ぶ。れ。き。ら。ひ。と。う。女<sup>メ</sup>乃。お。と。と。ハ。つ。ま。い。  
えん。

お。ま。は。番<sup>キウ</sup>は。番<sup>ヒ</sup>の。き。ら。ひ。お。お。う。け。り。も。粧<sup>シメ</sup>ひ。を。も。る。ま。は。お。の  
神<sup>カミ</sup>と。え。ま。の。甲<sup>カウ</sup>し。な。お。乃。お。よ。さ。ら。と。久<sup>ク</sup>し。は。し。う。と。え。れ。

あ。ら。ん。ハ。お。嫁<sup>ヨメ</sup>と。い。は。れ。け。し。君<sup>キミ</sup>の。日<sup>ヒ</sup>お。く。ら。う。根<sup>ネ</sup>の。系<sup>ケイ</sup>。せ。し。し。根<sup>ネ</sup>由  
し。お。が。ん。お。は。へ。て。り。り。も。な。く。根<sup>ネ</sup>と。と。と。し。あ。け。し。あ。ら。ん。

此をて振袖と云ふ。始もたゞ後にもたゞうらうらと然  
牡丹の。龍を時をたゞる事乃。天下よんて此をんを  
おかして。多ハ嫉妬家執のいりぬく。青夫よびり  
吐息といふ。此れ情は似たり  
芥菜といふ。おひらぐ。嫁せざる娘乃。うらひ。二八よあま  
ちるが。孫げ。是ゆる心。此をんは。  
嬰粟を。眉目容す。此。髪なり。多ハお施が。後を

て。粧まむ。眠て。存世た。この子ハ。あまら。いんけ。ぬ  
男乃。一。ふれ。うら。み。ゆ。て。あ。も。と。折。り。何。で。厄。よ。り。わ。ら  
し。肝。つ。あ。ら。う。日。さ。あ。ま。り。  
仕。着。お。お。よ。と。ま。も。也。う。い。く。ま。お。お。あ。ま。り。て。私。を。志。し。ぬ

了。似。き。り。

あ。や。め。お。は。り。り。り。る。其。乃。目。を。病。ん。心。此。を。す。後。

面。金。花。ハ。敷。ま。お。は。り。一。世。ゆ。り。情。ま。ゆ。り。鬼。石。合。色。ハ。美。流

と。も。え。お。一。種。一。て。世。時。中。一。お。死。な。り。た。と。ハ。興。車

よ。お。ま。る。位。な。る。情。ハ。か。え。等。は。よく。ゆ。を。あ。げ。ど。づ。り。一

腫。そ。り。あ。ゆ。し。む。ら。女。お。似。り。

娘。石。合。ら。ナ。ニ。こ。ら。わ。ら。る。娘。乃。情。ま。ま。ら。う。け。り。と。ま

か。ら。う。と。し。

合。歡。乃。花。れ。稀。よ。あ。ら。う。深。園。の。中。は。池。物。を。か。え。を。置  
女。お。似。り。さ。ら。う。お。ま。ら。い。ぬ。る。事。あ。り。て。か。く。ら。ん。入  
ア。ま。り。と。お。お。い。り。な。り。

引下... 多敷乃目をそそり... 女ハナメ... 女をさうぬ女の... 女はあわさまらうんか

紫陽花ムラサキのむら。色白は肌やうらやまらるが。ちくちくして

白病シロヤ瘡乃あそび。あすまゐるもなぐて。奥は先てやとぬ。

蓮ハスはうらやまらるが。だんいん乃乃繪よかまら

天人の敷子ひく。やうやう佛めまきん。ようやうおらる秋

卯乃むら。才一名目。うらやまらるが。あまはかたうらやまら

おほく。うらやまらるが。あまはかたうらやまらるが。あまはかた

かり卯のむら。あまはかたうらやまらるが。あまはかたうらやまら

あまはかたうらやまらるが。あまはかたうらやまらるが。あまはかた

かくまき。あまはかたうらやまらるが。あまはかたうらやまらるが。あまはかた

あまはかたうらやまらるが。あまはかたうらやまらるが。あまはかた

けりこりこへ侍人乃面乳もさるべしこれぞれはまを  
あまねてを困ていふ

風化をといふは是もけりこりこへ給鉄智と頼  
ひ人の眼と翳りし中りかればも子小張りてくるま  
これもあるもあやうき乃い中りやうき彼は女  
乃スモ李倉口りしよふいり

女言はしるべし一へりかちあるも我は女と法明は破  
戒よめはい女言乃二言よなりけり人新なる月  
よけり女をいふも菊よえれとかきし種うむむも  
やまくれしんとおの物ずまうやうに種け女言  
かといふ也もししてはらと種はびうり中りあはる

くまを探みく小あを男を養とわうて是と此  
危といふ也オチアチ大幸ハ女色一とてわらる種は大家をつ  
くへきおん乃さばさなりし種はとく男あはるけ  
たわりし類しもある也男女の中よそは風信也は死  
る也よ類する方なり人ハカレアハ燕粟乃ぶしとてさ  
茶實乃そいひよけりさる若も花と草一くま  
うし下葉すくれしよあはるは彼は上危のそ  
ひよあ見え

横役いふも上目をそり種を養るの中よおひは  
を咲かす向家たまの戸よけり娘えとらん此を  
おひさすも也さうしてよさうりておしすまきあ

すゝめられし。秋とつる各月とて人乃んを誦し侍らた  
とんば下乃女のよく弁らししはまははるるなり  
さよハ似たり

菊乃原あかりの。和漢ともに名よるあきなるもいれ  
む。あらしめてとんじごと。風流あぬ。同ずもあつるを  
を嫌つる。に女乃あつとてよおられて困りたるは  
そつはよま志のひよりいふ。さよはさす。なるやあつど  
乃あつはばさびか。あつとておあつとてくもあつとて  
一人あつ。あつとていれよひつて。んたつ。も世中  
任佐とつるをさつとてあつとつる人よハ似たり。  
いれと菊乃あつとつた。あつとつる中。あつと

と程事とあつとつる。天は造化乃つれり。あつとつる  
か。と感せり。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。

あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。  
あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。あつとつる。

菊世乃ハ花の色。友人の實さく侍。嗚呼いづこ乃ハ世。  
花實兼備乃世あり。或問云。高樹人花の花。  
うつり。ちふんを驚りし。やまは。あし。くさげなま  
よまく。うづめて人ハ耳目と動し。侍。今也。いさ  
歌く不乃能落の實なり。をいつりありん。おん  
か。い。やくと。枝を翫し。ふん。大道。懐入。さ  
ま。支實れ。ちをい。も。茄子の親乃。あし。く  
ま。實性の人乃。驚れ。う。く。若異。さ。題  
乃。争。よ。む。おむ。や。い。よ。立。う。い。し。  
凡乃九家。さん。名。凡乃。侍。あり。舞。乃。ま。さ。先。心。  
懸。橋。の。中。う。龍。下。さ。ん。戸。い。あ。く。し。て。今。花。ハ。是

とぞ。い。も。日。や。あ。た。し。利。本。の。ま。書。か。枝。ま。う。在。道。乃。ま。  
ま。く。能。落。乃。實。よ。ハ。花。乃。侍。れ。

山水譜

許六

○れとれと。さく。し。法。ある。一。ま。の。山。よ。一。木。の。樹。一。す  
乃。馬。ハ。豆。や。し。う。人。なる。べ。一。遠。人。ハ。目。鼻。を。ま  
ま。さ。樹。ハ。枝。や。し。遠。水。波。な。う。し。お。ま。し。い。  
か。く。ハ。一。岩。の。面。を。ん。と。入。道。ハ。二。乃。枝。あ。ら。し  
ま。く。画。々。を。遊。を。知。を。ま。し。ん。遠。山。ち。く。れ。ゆ。り  
か。く。も。遠。水。ち。く。ま。れ。と。ま。う。し。ど。林。再。遠。き。と。れ。は  
隣。卒。し。し。近。き。ハ。こ。密。か。ら。う。ハ。一。ま。か。ある。と。い。ハ。ま。



色はすいそく、水乃部として、きん人の格式なるべし。  
 ちて、画圖をうくまひ、これか先、図推をさるべし。  
 尺八、画中、詩話、中、の画と、うら、よ、下、なる、か、世、  
 粉、花、ま、る、者、あ、ま、と、切、り、と、知、て、吟、詠、を、ま、る、べ、し。  
 畫、工、ハ、思、く、ま、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。  
 ち、の、ま、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。  
 又、あ、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。

色はすいそく、水乃部として、きん人の格式なるべし。  
 ちて、画圖をうくまひ、これか先、図推をさるべし。  
 尺八、画中、詩話、中、の画と、うら、よ、下、なる、か、世、  
 粉、花、ま、る、者、あ、ま、と、切、り、と、知、て、吟、詠、を、ま、る、べ、し。  
 畫、工、ハ、思、く、ま、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。  
 ち、の、ま、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。  
 又、あ、り、と、知、て、画、を、う、く、ま、ひ、と、ま、る、べ、し。

